

特集 **そして夏**がくる 戦後 70 年



市原爆被害者の会

会長 岩本賢三さん（69）

市原爆被害者の会は府内で最初に発足した被害者の会で、今年で 58 年目を迎えます。会員数は現在 135 人。平均年齢は約 80 歳になります。

私は胎内被爆者なので、会員の中では最も若い世代です。原爆が落ちた日、広島にいた父を心配した母が市内に入って被爆し、お腹の中にいた私も被爆しました。両親は原爆の話をほとんどしませんでした。父の体からは終戦後 10 年たってもガラス片が出てきたことを覚えています。

今、会としてやろうとしていることがあります。それは、戦争体験を若い世代にできる限り語り継ぐこと。それも、できれば生の声を子どもたちに聞いてほしい。年々、それができる人たちの数は減っています。限られた時間の中で一人でも多くの子どもたちに記憶を伝えるために、市内の小・中学校などで「語り部」の活動を広めています。

被爆者の中には、自分が被爆したことを子どもにも伝えていない人が多くいます。自覚することで当時の記憶が生々しく呼び起こされるからです。私自身、40 歳を過ぎるまで誰にも被爆したことを話せずにいました。しかし、被爆時の凄惨な状況やつらい思い出、苦しい思い出から目を背けることなく、こんなことが二度とあってほしくないとの次の世代に語り継いでいくことが、私たちにできる唯一のことだと痛感しています。私たちの会の意義は、戦争の残酷さ、愚かさを発信し続けること。そのためにも、多くの小・中学校で「語り部」の機会を与えていただきたいと思います。

「語り部」についての問合せ先 岩本 ☎ 621・1766